

平成29年度事業計画書

公益社団法人 劇場演出空間技術協会

平成29年度の事業活動は、昨年度改正された新組織での活動を定着させる年度になる。急激な国際社会の変動を確実に捉え、新しい潮流を敏速に取得し本会の公益事業に反映する。

公益社団法人としての活動を、不特定多数の国民のために、定款第4条に掲げる事業活動を余すところなく実行する。

当協会員がJATETの存在と会員である事を実感し誇負できる公益活動を活発に行う。

本会の活動を積極的に全国に向けて訴求する体制を強化する。

平成29年度に実施する具体的な事業計画は次の通りとする。

1. 会議

1) 総会

平成29年5月23日（火）14時からホテルローズガーデン新宿に於いて開催予定。

協会の最高機関として、定款第52条(事業報告及び収支決算)に則り平成28年度事業報告、収支決算報告に関する承認決議を行い、第51条(事業計画及び収支予算)に則り平成29年度事業計画、収支予算書の報告をする。

2) 理事会

定例理事会を年4回開催し、協会運営に関する重要事項を審議し、業務の執行を決議する。

2. 委員会

1) 事業執行連絡委員会

定款第58条(委員会)に則り、理事会の諮問機関として、執行理事及び部会長で構成される事業執行連絡委員会を毎月1回、年12回開催する。年間事業計画に基づき理事会で承認した事業を執行し、理事会と部会の緊密な連絡を諮る。

3. JATET部会計画

平成29年度における所属各部会の主たる事業計画は次の通りである。

1) 教育研修部会

劇場、文化施設の繁栄に努め、公益社団法人として社会貢献できるように取り組む。

[事業計画]

(1) 部会を原則月1回開催し、新設、改修された劇場、施設の情報収集する。

(2) 新設、改修された劇場、施設に対し、施設見学会を年3回を目標に開催する。

見学会を開催することで、施設建設の工夫などみどころを建設に関わった方たちから聞き、施設の関心を高めるとともにこれからの施設建設の向上に貢献します。

〈見学会候補施設〉

大和市 芸術文化ホール

神奈川県大和市の大和駅東側再開発事業として建設された大和市文化創造拠点シリウスの中にある劇場です。

最大1007席の「メインホール」、最大272席の平土間多目的対応もできる「サブホール」、可動パネルを備え幅広い展示に対応可能な219.3㎡の「ギャラリー」、リハーサル利用も可能な145.3㎡の「マルチスペース」で構成されています。

シリウスの中には芸術文化ホールのほかに“FMやまと”のラジオ放送スタジオ、大和天満宮の社殿もあります。

東海市芸術劇場

愛知県東海市の東海太田川駅西地区第一種市街地再開発事業として建設された複合ビルユウナル東海

の中にある劇場です。東海市の文化芸術拠点として整備され名古屋フィルハーモニー交響楽団と「東海市ひとづくりパートナーシップ協定」を締結し、演奏会などを提携して進めていくことになっています。

1,025席の「大ホール」、演出により舞台位置をエンドステージやセンターステージに可変する最大274席の「多目的ホール」、客席を設ける催事利用も可能な「リハーサル室」のほか練習室3室、美術室を備えています。

東広島芸術文化ホールくらら

広島県東広島市の新たな芸術文化拠点の創設と都市機能の強化を目的として建設された文化施設です。近隣に隣接する新庁舎や西条中央公園、JR西条駅、酒蔵通り、西条駅前商店街など中心市街地一帯のまちづくりの中核施設として位置づけられています。

施設には、こもれび広場を中心に、1,206席5層の「大ホール」、階段状の客席を収納し、ステージと同じ高さの平土間とすることが可能な305席の「小ホール」、練習室と稽古場兼大会議室を合わせて使用する196㎡の「サロンホール」、展示会に適した119㎡の「シミンギャラリー」のほか会議室、研修室やカフェ・レストランなどが備わり、市民の交流の場としても活用できるようになっています。

久留米シティプラザ

久留米市中心市街地の六ツ門地区に開館した文化交流施設です。老朽化した久留米市民会館に替わる文化施設としての機能、医療や企業の発展・交流を促進するためのコンベンション施設としての機能、そして、中心市街地活性化の役割を担う中核的施設としての機能を併せ持った施設として、「憩いと賑わいが調和する『文化』『活力』創造空間」という基本理念に基づき整備されました。

文化施設は8番街区に位置し、ザ・グランドホール、久留米座、Cボックス、スタジオがあります。ザ・グランドホールは1,514席の客席を確保した4階層構造で、音響性能を重視した音楽主目的の多機能ホールです。久留米座は399席の客席を持ち、ジャンルを問わず様々な催しが可能な中規模ホールです。Cボックスは練習施設としても、客席を設置して公演会場（最大144席）としても利用できるスペースです。スタジオは4室あり、振動や音漏れを最小限に抑える構造になっています。

- (3) 見学会が開催された劇場、施設をJATETジャーナルで紹介し、最新の劇場技術、リニューアルの実例等を全国に無料にて提供をする。
- (4) スタジオ、仮設劇場、制作場など劇場施設以外の新たな見学先を検討する。建築・設備の見学だけでなく、一般には公開されない施設を見学することで、設計事務所やゼネコンの方たちの新たな設計、施工への発想を促し、新しい劇場、演出空間の建設に役立てる。

2) 建築部会

部会を原則月1回開催し、次に掲げる調査研究を前年度からの活動に継続し実施する。さらに調査研究テーマに即した研究会を随時行う。

(調査研究テーマ)

今後、多くなることが予想される劇場・ホールの改修プロジェクトの事例調査を行い、改修実施における課題の抽出と、今後の改修実施に資する情報の収集と整理を行う。

平成29年度は前年度からの研究の仕上げ年度として引き続き研究を行うとともに、年度末にはセミナーを実施する。

調査研究内容

今後の劇場・ホールの改修実施に資すると思われる、機能改修を含む、大規模改修を実施した事例を全国で10例程度選定し、その実施プロセス、実施方針及び内容、実施スケジュール等を調査・研究し、その成果を資料集にまとめる。かつそれを題材にした改修セミナーを実施し、今後の改修予定施設の実施に資する情報を提供する。

(1) 改修方針・・・改修の全般的な方針及び概要のまとめ

(2) 改修内容

イ. 建築計画の改修・・・全般的な改修方針、施設部位ごとの改修内容

ロ. 一般設備の改修・・・電気、空調、給排水設備ごとの改修方針、及び改修内容

ハ. 舞台設備の改修・・・舞台機構、舞台照明、舞台音響、映像設備ごとの改修方針、及び改修内容

- (3) 改修実施プロセス
 - イ. 改修調査、改修設計、改修工事等のプロセス及びそのスケジュール等のまとめ
 - ロ. 改修実施にあたっての体制などのまとめ
- (4) 改修コスト
 - イ. 改修にかかったコスト情報提供者の支障のない範囲でのまとめ

3) 機構部会

部会を原則として月 1 回開催し、以下の活動を行う。

- (1) 舞台機構関連の JATET 指針、規格等の見直し、改訂
 - 以下の指針の見直し、改訂を行う
 - イ. JATET-M-4010-1 舞台機構操作で使用される用語と操作釦等の配置（平成 6 年発行）
- (2) ガイドラインの作成
 - イ. 繊維ロープについてのガイドライン作成
 - ロ. 吊物バトン用積載量計算ソフトの作成
 - ハ. 吊物バトン積載表示について照明部会と協議し、統一した表示方法を検討する
- (3) 安全手帳について継続検討する
- (4) 指針、ガイドライン等の解説を JATET 誌、JATET ジャーナル等に掲載するとともにホームページ上で公開し、他の専門分野や施設管理者に広く活用していただく。
- (5) JATET の事業において機構分野の分担・協力をする
 - イ. JATET 技術展、JATET フォーラムにて舞台機構関連の技術や指針について展示・セミナーを開催する。

4) 照明部会

部会を隔月開催すると共に、下記の調査研究会を必要に応じて随時開催し、主として次に掲げる項目をはじめ、懸案課題の具体的な解決を図る。

(調査研究テーマ)

- (1) JATET セミナー、JATET 技術展が開催される場合は、照明部会として参加、協力をする。
JATET 安全手帳作成に関して、引き続き照明部会として照明器具の取り扱い方等安全注意事項を取りまとめる。
- (2) 近年の劇場・ホール、イベント会場で行われる POP コンサートの公演の演出照明は、ムービングライト、LED 光源の照明器材などを多用した表現となってきた。
使用されている器材等は海外からの輸入品が多く、ムービングライトコントローラー、ネットワークシステムもイベント会場のみではなく、劇場・ホールに外部からの持込み器材として使用されている。
このような現状をふまえて、演出照明の今後の展望などを調査、研究の参考にするために、JATET 会員で部会に参加していない団体、個人、及び会員外の他団体、輸入代理店等と意見交換会を開催し、あらためて照明部会の活動を認知してもらうことと、現在の現場、海外の情報の収集を図りたい。

(調査研究会)

- (1) LED 演出照明設備調査研究会
劇場演出空間における舞台照明設備は、従来の白熱灯光源を調光電源で制御する方式から、LED 光源を制御する新たな方式へ変化しており、照明設備の運用面や設計面の考え方も変化していくことが考えられる。
JATET 照明部会の研究会として、このテーマについてユーザとメーカーが討議することで知識の共有を図り、これからの設備のあり方について調査研究をおこなう。
舞台照明設備の電源系設計などについて、今後の改修や新築における電源分岐回路の方式による特徴や、照明電源の考え方を主体とし設置や制御なども含めて検討し安全確保と技術の向上に努めていく。
調査、研究の経過に応じて、施設、設備の見学会開催も検討する。
2017 年度も昨年度に引き続き研究会を開催する。
- (2) 演出空間用 LED 照明器具表示規格研究会
 - イ. 2016 年度に白色 LED の安全と基本的な情報に対する表示規格を制定したが、照明器具の明るさの

表示方法などについて引き続き検討を行う。

- ロ. LED 照明器具の電源は直回路にする必要があるが、現在の照明器具の電源プラグの現状を調査すると共に、どのようなプラグを採用していくことが望ましいのかの検討をおこなう。
- ハ. 当初から検討していた項目であるが、カラーLED 照明器具の表示規格の発行に向けて検討・議論を行う。
- ニ. 次の新光源の調査、研究のために、次世代の主力光源として考えられている“レーザーの発行原理と安全性”のテーマで専門家に講義を依頼する。

5) 音響部会

部会を原則として隔月開催、作業部会を随時開催し、以下の活動を行う。

(調査研究テーマ)

- (1) 音響設備動作特性規格制定に伴う解説書の策定を行い、関係者に頒布する。
 - イ. 劇場等演出空間における音響設備動作特性の測定方法 (JATET-S-6010:2016) 制定に伴う解説書の策定
2015 年度に策定した JATET 規格「劇場等演出空間における音響設備動作特性の測定方法」(JATET-S-6010:2016) の解説書を策定すると共に、JATET 技術展セミナー部門の参加者に配布する。併せて、規格の付属書として、関係者に頒布する。
- (2) 音響設備に関する最新かつ必要な情報を幅広く収集するとともに、とりまとめ関係者に伝達する。
 - イ. 音響設備電源の要件並びに電力需要に関する調査研究
音響専用電源及び接地に関し、変圧器メーカーなどの専門家を招へいし、部会員を対象とした勉強会を実施する。
 - ロ. 劇場等演出空間用音響設備の劣化診断・適正更新時期判定プログラムに関する調査研究
劇場等演出空間施設の音響設備について、劣化診断を行うことで適正な更新時期を判定するためのプログラムに関する調査研究を実施する。
 - ハ. デジタルオーディオネットワークの世界的な動向に関する調査研究
音響設備のデジタル化に伴い、さまざまなネットワーク技術を用いたマルチチャンネル伝送規格についての最新動向を収集、調査研究を行い今後の方向性を探る。
 - ニ. 「JATET 安全手帳」の取りまとめに伴う、音響部門における安全留意事項の調査研究
JATET 全体の事業として計画する「JATET 安全手帳」の取りまとめに伴い、音響部門での安全に関する留意事項を取りまとめる。

6) 映像部会

- (1) 部会と研究会を兼ね、原則として月 1 回開催し、以下の活動を行う。

映像技術を取り巻く状況は、デジタル化の急速な進化と共に、ネットワーク技術との連携による構造的な変革を始めている。次世代放送システム「4K/8K」スーパーハイビジョン放送の試験放送が、国の施策として示されているロードマップに沿って、放送局、メーカー、コンテンツ制作者が連携して推進している。昨年 8 月 1 日に、NHK は「4K/8K」・UHDTV (スーパーハイビジョン) による BS 試験放送を始め、ブラジル・リオデジャネイロのオリンピック・パラリンピックの中継放送により、全国各地でパブリックビューイングなどを通して視聴者が体感できるような取り組みを行っている。演出空間としての劇場・ホール等での映像利用の拡大と共に、映像システムのデジタル化やネットワーク化、IP 化が急速に進んでいる。放送やネットワークによるライブ動画配信の高品質化に伴い、メディアの環境が変化する中で、劇場演出空間においても、「技術の進化と共に、将来に向けてどんな新しいビジネスモデルを組み立てるか。」を今年度の研究テーマとして部会活動を推進する。また新しいメンバーの増強にも積極的に取り組み、以下の活動を行う。
- (2) 「今年度のテーマ未来の姿を捉えて、今をデザインする。」

劇場演出空間からの情報発信：ライブ・放送・パブリックビューイング・ネット配信・アーカイブなどのキーワードを中心とした技術動向調査。具体的な実証事例の機会をとらえて、「劇場における映像技術、演出の現状調査」を企画、提案する。
- (3) 映像部会研究会 (JATET 内公開) を下記の内容にて開催する。
 - イ. 研究会-1
外部講師によるセミナー (JATET 内に公開) を開催。

最新情報の取得および取り組むべき課題を議論

NHK：4K/8Kに関する最新技術の状況と、オリンピックに向けた取り組み

NTT：光ネットワークによるパブリック・ビューイングへの展開

外部講師（候補）未定

ロ. 研究会-2

パナソニック、ソニーなど、メディア関連システムのメーカーが描く未来の姿

演出空間技術に関わる最先端技術について（NAB、IBCなど展示会をテーマに）

外部講師（候補）未定

(4) 第2回JATET技術展において映像部会のセミナーを企画する。

予定される第2回JATET技術展におけるセミナーに於いて、劇場演出空間における将来のインフラ構築へ向けた提言をまとめることを目指す。

7) 広報部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

(1) JATET とその活動についての情報発信を図る。

JATET の持つ多くの劇場演出空間についての情報や人的資源を、広く社会のために資するための広報活動を展開し、社会のニーズを調査し、JATET とその活動範囲の拡大と活性化を図る。

平成28年度より引き続き JATET が発行予定の JATET リーフレットの作成、JATET 安全手帳の普及等へ協力する。

(2) 公益法人としての広報活動の調査研究をする。

公益法人としての広報活動がどのようにあるべきかについて、先行事例等の調査を行い、今後の活動の指針とする。

(3) JATET 全体での事業について、広報分野を担当し、協力する。また教育研修部会と協力し、セミナー等の会場受付、進行等の協力をする。

4. JATET 技術展

第2回 JATET 技術展を開催する。

平成30年1月に開催する。

第一会場（展示会場） 全労済会館 新宿スペース・ゼロ 日時 平成30年1月

第二会場（セミナー会場） 現在 探索中 候補新国立劇場

劇場演出空間で使用される舞台機材の最新技術を紹介することと、劇場演出空間全域での安全に関わる最新の研究を紹介し、広く全国に普及させることを目的とする。

5. 国際交流

定款第4条事業第6項内外関連機関・団体等との交流に基づき、OISAT JAPAN及び韓国産業技術試験院（KTL）との交流、連携をより一層強化する。

6. 国内交流

定款第4条事業第6項内外関連機関・団体等との交流に基づき、劇場演出空間施設と、これに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する関連機関・団体等との交流を促進する。

7. 発刊物

1) 機関誌JATET

機関誌JATETを年2回程度発行し、JATETが創立以来行なってきた事業や研究成果を広く社会に訴求する。

また、各部会で研究、調査している最新技術や最新情報を広く社会に紹介する。

2) JATET ジャーナル

JATET ジャーナルは教育研修部会が実施する劇場施設見学会と連動し、ホームページ上で電子媒体として本年度は年2回程度発行し、最新の劇場演出空間及びリニューアルされた劇場演出空間を広く全国に紹介する。

3) JATET ニュース

JATET ニュースは、最新のJATET情報や関連団体の活動を速報として、毎月1回を基本に電子媒体として発行する。

4) JATET リーフレット

公益法人としての JATET の設立意義とその活動について広く社会に周知し、より多くの会員を獲得するため広報部会が作成したリーフレットを普及させる。

8. JATETマークの改正と普及

JATETマークは、平成28年3月末で照明関係全社の契約が終了し、照明各社は現行のマークをそのまま使用している。他の技術系部会もJATETマークを採用可能か検討を進める。

公立の劇場ホールからは、舞台設備にJATETマークが取り付けがあれば、使用上の安心感が増加するという意見が寄せられている。照明以外の他の分野に応用が可能か緊急に研究し、結果を公表する。

9. JATET安全手帳の作成と普及

演出空間全体として必ず必要となる設備、機材の取り扱いに関する安全注意事項をまとめたものがない。舞台設備メーカー取り扱い説明書に記載の安全に関する注意事項を整理し、共通項目と各分野独自の注意事項をまとめたJATET安全手帳を作成する。

会員各社で使用している保守点検作業時の安全事項などの要領書、マニュアルを利用して取りまとめをおこなう。

10. 舞台設備に使用する三相3線式電源に関する調査研究

舞台機構、照明、音響などの設備機器用電源の電気方式は従来100V、200Vの供給には、電技解釈に規定された対地電圧150V以下の制限から、単相3線式や三相4線式が用いられており、舞台機構の電動機や一般動力電源として三相3線式での配電が用いられている。

昨今、施主、設計事務所、コンサルタント側から舞台持込設備用として三相3線式電源を要求される場合があり、その場合の設備の工事内容、使用対象機器、使用時の安全対策、電源盤上の表記など、三相3線式電源を取扱う場合の安全性に関する調査研究を電気設備学会とともに共同で開始する。

以上